

教育支援(美術教育)

学校内での美術授業の普及を目指して



絵を描くスキルを高め、指導法を学ぶ先生方

学校内で美術授業普及を目指して

2012年10月、スワイリエン州、カンボット州にて各4日間ずつ美術研修を実施。114名が参加しました。今年度は、学校内で美術教育を普及していく上で協力が不可欠な校長先生も招待し、理解を深めてもらう機会を提供しました。

また、州・郡の教育局担当者にも参加してもらい、学校や先生方が教育関係者からのサポートを受けやすい体制を築きました。

今年度のプロジェクト対象地域は、殆どが僻地にあり、子どもたちは美術教育を受ける機会に恵まれていないため、先生方にはまず美術教育が子どもの能力(特に想像力や感受性)を育むためにいかに重要であるかを知ってもらい、外国で実践されている内容も紹介しながら、絵を描くスキルや指導法を身につけ、各学校で実践してもらい、様々な内容としました。



美術の重要性について説明するJHPスタッフ

現場の声を

プロジェクトに反映させるために

2012年7月、スワイリエン州、カンボット州の対象校の校長30名、教員60名、保護者30名、近隣住民36名、生徒267名を対象に学校調査および授業の観察を実施しました。

学校長へのインタビューでは、現段階ではほとんどの学校で十分に美術授業が実施されていないことがわかりました。一方で、調査を行った30校の全ての校長先生から、「美術教育は子どもたちにとって必要である」、「美術教育が正式科目になることに賛成」という意見が得られました。そのために重要となる要因については、右欄の通りの結果を得ることができました。これらのデータを、上述の研修会の指導内容の検討に役立てることができました。



校長先生へのインタビュー

参加者の感想

●美術教育は子どもにとって多分野で役立ちます。JHPのプロジェクトを通してプロジェクト対象地域以外でも美術教育が浸透することを望みます。(スワイリエン州教育局長)

●今までは想像力・創造力にはなじめがなかったけれど、今日の研修を受けてその重要性が理解できました。これから美術教育を広めていきたいです。(校長先生/スワイリエン州)

●トレーニングの会場まで遠くスクールも降って大変だったけれど、研修はとても勉強になりました。これから学校に戻ってうまく子どもに教えられるかわからないけれど、みんなでがんばって美術教育を広めていきましょう!(教員/スワイリエン州)

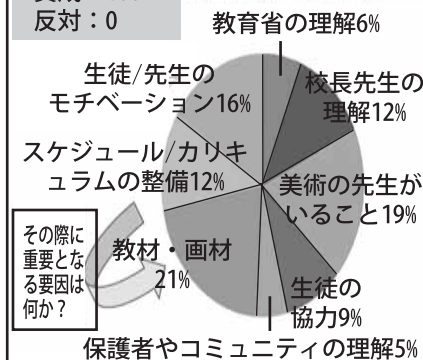
子どもたちにとって美術教育は必要か?その理由

必要: 100 / 必要でない: 0

- ・子どもたちに創造力、礼儀、忍耐が身につくから
- ・子どもが絵を描くのが好きだから
- ・子どもたちに学校に来る楽しみができるから
- ・芸術は緊張をやわらげることができるから
- ・子どもたちが継続的に学校へ来るようになるから
- ・他教科の授業にもついていけるようになるから
- ・画家になるために必要だから

将来、美術教育が正式科目になる事について賛成か?

賛成: 100
反対: 0



プロジェクトの背景

カンボジアの美術教育は、教育省から出ている教育課程の中で独立した科目ではなく、小学校では「社会科」の一部、教員養成学校では「芸術科」の一部として指導されている。指導内容は、臨画がメインとなっており、子ども達が自ら想像し、新しい考えを生み出すような内容が非常に少なく、子ども達の情操を育む内容とは言えない。また、年間を通して時間数も限られていることから、十分に授業を実施することが出来ない状況である。

第11回絵画展に16,174名来場



クバルローミア小学校での絵画展

今年度は、美術教育普及プロジェクトの対象地域を2地域に絞り、2013年1月9日から2月22日まで、2地域7ヶ所で行いました。テーマは、小学1~3年生「私の好きなもの(もの、ひと、動物)」、小学4~6年生・教員養成学校「私の行ってみたい場所(自分の姿も絵に描く)」としました。カンボジアからは、小学校66校と教員養成学校24校から、計1,560点の応募がありました。一方、日本からは36点に留まり次年度の課題となりました。

参加者の感想

たくさんの子どもの作品を見ることができ、とても興奮しました。絵画展には、作者の好きな場所と様々な活動が描かれた作品が沢山ありました。これらの作品は、非常に意味深く、子ども達にとって非常に重要であるとともに、作者の気持ちが分かるようです。この絵画展は私が今まで経験したことのないとても素晴らしい行事であると思います。そしてこの行事を通して、生徒たちは将来の為に様々な事を学んで欲しいと思います。

(カンボット州ドムナックコントート小学校
Tin Chea氏)

絵画授業用の画材を

88校に支援

今年度は、新対象地域となったスワイリエン州10校、カンボット州22校に加えて、既対象地域のカンダール州7校、コンボンスプー州15校、コンボンチャム州10校、全国の教員養成学校24校に支援しました。主な画材は、クレヨン、色鉛筆、水彩絵の具、パレット、絵筆、画用紙など。新対象地域の2州では、美術トレーニングにて画材の使用法も指導した上で寄贈することができました。



画材を寄贈(バンティエイ小学校)

絵画審査会へ

専門家2名派遣

2012年12月6~15日まで、日本画家の中村豪志・ひろみ両氏を派遣し、2地域の審査委員会と共に「教育省賞」を選考しました。審査会には、プロジェクト対象校となっている学校の先生方も参加し、審査を通じて絵画の鑑賞力や評価について学ぶ機会となりました。



絵画展審査委員会の様子

第11回カンボジア絵画展 小山内美江子賞 〈小学校部門〉



「稲田での夕日の風景」
Mesor Thngak/小学校6年
Tep Apsor/女子12歳
(スワイリエン州)

〈教員養成学校部門〉



「バタンバン州のブンパノン遺跡」
中学校教員養成学校2年
Oun Tang Ornn/男性23歳
(バタンバン州)